トマトと小鳥と薔薇と

にょきりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
トマトと小鳥と薔薇と

【Ｎコード】
Ｎ３４６５ＢＡ

【作者名】
にょきりん

【あらすじ】
悪友トリオである三人がある朝目を覚ますと中身が入れ代わっていた！？
原因も分からず慌てる三人、とりあえずは子分や弟である相棒や隣国にばれないようにしなくては。果たしてどうなるのか―！？
悪友トリオのｇｄｇｄ物語開幕！！

◆プロローグ◇（前書き）

初めまして。初投稿ですが何卒よろしくお願いします。

誤字・脱字があったらすみません。

今回はプロローグです。

◆プロローグ◇

その日は世界会議の最終日であった。

今回の主催国はドイツであったが不運なことに高熱で寝込んでしまった。（不況などからくるのではなく単なる風邪であったが）会議を中止するわけにもいかず代理として出席したのは兄であり亡国のプロイセン―ギルベルト・バイルシュミット―であった。

会議はアメリカの無謀な意見から始まりイギリスとフランスは殴り合い、ロシアはいつもの黒い笑みを浮かべバルト三国に恐ろしいことを言い出す。眠っている人や本を読んでる人、内職を始める人もいる。

ここでは普通ならばドイツが怒鳴ることによって会議がやっとのことでいい方向へと進むが、その代わりにいるのはプロイセン。結局会議はまとまらず議題は次に持ち越し。北イタリアの「パスター！」によって解散となった。

「疲れた……」

ギルベルトの呟きに

「あれがいつもの会議や。ま、俺も疲れたわー」

と関西弁で言葉とは裏腹に楽しそうにスペイン―アントーニョ・フェルナンデス・カリエド―が

「ま、プーちゃん今回主催国だったからね。てかアントーニョ造花作ってのんびりしてたじゃん」

とフランス―フランシス・ボヌフォワ―が答えた。
「な、何言うとんねんフランシス！造花作んないと上司に怒られるんやで！上司怒ると怖いんやで！」
「こっちは三日連続であの眉毛に殴られたのよ！痛いしお兄さんのトレビアンな顔に傷がついたんだから！」
ひどいわ元ヤン眉毛！と嘆くフランシスに
『いやそれはお前が悪い気がする』
と言おうとしたギルベルトだったがさらに傷つきそうなのでやめておいた。
代わりに別のことを思いついたのだが
「「「そうだ、酒を飲みに行こう」」」
三人の意見は見事に一致していたようだ。

その後の記憶は曖昧であった。
ワインやビールを大量に飲んだことから三人は見事に酔っ払ってしまった。
ギルベルトが世界会議用に手配したホテルが幸い近くにあったため、一番酔っていたアントーニョを二人が運び、そのまま三人共ベットに飛び込み眠りについた　のであった。

そして夜が明け不思議な出来事の幕が開ける。

◆プロローグ◇（後書き）

悪友三人で飲んだらスペインとか何飲むんですかね？

ぐだぐだで駄文ですが更新頑張りたいです。よろしくお願いします！！

◆01　始まった朝◇

三人の中で一番早く起きたのはフランシスであった。
彼は料理が大好きなので忙しくない時はいつも作る。
今日はギルベルトやアントーニョもいるのでメニューについて考え込んでいた。

ドイツん家の料理素材で食え！って感じだから薄すぎて困っちゃう。市場は開いてるはずだから材料は何買おうかな、アントーニョもいるしトマトかな、あ、でもトマトなくたってお兄さんの料理世界一だからどんなのでもみんな満足するよね。というかお兄さん自体世界一だよね。やっぱ、立派、俺。

明らかに後半が自分の自慢になっていたが気にしない。
よっと起きあがろうとした瞬間違和感を感じた。

―髪の毛が顔にかかって来てない―

ほんの些細なことだが確かにいつもと違っている。いつもは肩まである長い髪をサッと払い優雅に起き上がる。自分の髪の美しさもしめすこの仕種ができない。
仕方なく起き上がる。そしてふと左を見ると……

有り得ない光景を目にした。

一人はシーツを手繰りよせむにゃむにゃと眠るギルベルト。ここは問題ない。

その隣。隣の人は…

くかーといびきをかくフランシスであった。

「…………………!?」

…おかしい。明らかにおかしい。あぁこれは夢なのかなと頬をつねると痛い。

夢、じゃない。としたら自分はどうなっているのかとフランシス洗面所にダッシュする。

鏡に映っているその人は

アントーニョだった。

「…ギャァァァァァァァァァァァァァァ！！！！！」

フランシスは思わず叫んでいた。

◆01　始まった朝◇（後書き）

フランシスはアントーニョに。

◆薔薇↓トマト◇です。

次は三人の顔合わせです↑

（感想やコメ貰うと作者は飛び上がるほど喜びます。）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3465ba/

トマトと小鳥と薔薇と

2012年1月9日00時51分発行